



「並木道」加藤東一

1949年（昭和24年） 第5回日展
209.0×134.2（P130） 絹本着色、岩絵具、額装

東京都中野区上高田の新井薬師に住んでいた東一は、近くの江古田に櫟（けやき）並木があり、向き合う櫟が作り出す煙が立ち上がるような空間が面白くて描いたという。

この年の4月に、東一は岐阜県不破郡赤坂町 安藤敬治の長女：文子と結婚した。若葉が茂り生気に満ちた作品から、新婚の初々しさと希望に胸弾む喜びが伝わってくる。若き日の東一の名作の一つである。

（「素描・下絵・本画展」に展示）

企画展

ちょっと昔の道具たち

2009.1.9(金)～3.8(日)

■昨年度までの取り組み

今年度で13回目を迎える展覧会。本展は小学生が社会科で初めて歴史を学習することをふまえ、「具体物を通して」学習する場の提供と、ハンズオンによる体験やジオラマ式の展示を取り入れた、「五感で楽しく」学ぶことを目的に開催しています。

展示コーナーは児童の生活との関わりから、「学校」「まちかど」「家のなか」「家のまわり(遊びのコーナー)」の4コーナーとし、「学校」「家のなか」が「おじいさん、おばあさんが子どものころ(90～60年くらい前)」、「まちかど」「家のまわり」を「おとうさん、おかあさんが子どものころ(50～30年くらい前)」を中心とした時代設定で展示するとともに、各種体験用資料を配置しています。これとは別に「100年くらい前の道具」コーナーを設け、他のコーナーの展示資料との比較により、道具の移り変わりが理解できるようにしています。

本展開催にあたっては、毎年岐阜市教育研究会小学校社会科部会の先生方と、展示内容や運営等について検討を重ねると同時に、アンケートによる来館者の要望も踏まえながら、内容の一部をリニューアルしています。

昨年度は「まちかど」コーナーの喫茶「まちかど」を、銭湯「まちかど湯」に改装して番台と脱衣場を作り、のれん、脱衣箱、籐製ベビーベッド、マッサージ機(可動)、天井扇風機(可動)などを展示するとともに、牛乳キャップの蓋開けなどの体験を加えました。当コーナーは、本年度も引き続き展示いたします。

また、会場内では、ボランティアの「ものしり博士」が常駐し、解説や体験活動の補助をおこなっています。昨年度は大学生から80歳代までの方々、99人の登録があり、その活動は来館者から高い評価をいただきました。

■本年度の取り組み

①「まちかど住宅」新設

「まちかど」コーナーに四畳半の居間と縁側を設け、昭和40年代前半の茶の間をイメージした「まちかど住宅」を新設します。現在の小学生の「おとうさん、おかあさんが子どものころ」は昭和40年代が大半であり、その年代に見合った展示の希望が多かったためです。また、「家のまわり」コーナーの「居間と台所」(昭和戦前頃)と比較することで、生活の変遷をより明確に提示することも狙いとしています。

具体的には、ちゃぶ台を中心に白黒テレビ、足踏み式ミシン(可動)、レコードプレーヤー(可動)、学習機などを配置し、机には蛍光灯スタンド(可動)や昭和40年代の教科書、参考書類を置く予定です。また、当時流行した「パーフュクションゲーム」や家庭用「スマートボールゲーム」、ソノシートなどを用意し、土・日曜には実際に体験できるように準備しています。



「だがしやさん」くじ引き体験の様子

②「だがしやさん」コーナーくじ引き景品の拡充

本展のなかでも、特に人気の高いコーナーのひとつ、なつかしい駄菓子や駄玩具が並ぶ「だがしやさん」。商品はいずれも展示品のため、販売はしていませんが、「これください」と希望する来館者の方も多くいらっしゃいます。

そのため、当コーナーでは「くじ引き体験」として、中学生以下の方に景品が当たる、「数合わせ」くじの体験を取り入れてきました。従来の景品は、本展オリジナルの絵葉書、メンコ、買い物遊びや、オリジナルフレーム入り記念撮影、スーパーボールでしたが、本年は、昭和40年代によくみかけた、「着せ替え遊び」「電車遊び」と、ガムなどのおまけに付いていた「インスタントレタリングシート」を追加します。

くじ引きを楽しむと同時に、当たった景品に描かれた図柄や写真、遊び方などから、当時の暮らしぶりを知ることができるように工夫して

います。

■見学について

さて、学校団体で本展をご覧になる場合、3,4年生向けに専用の見学プログラムや、ワークシートを用意しております。これとは別に、1年生限定で「たぬきの糸車 SPECIAL DAYS」を4日間設定し、美濃コットンボール銀行の皆さんとものしり博士による、綿繰り体験・たぬきの糸車紙芝居・わくわくはらっぱでの昔の遊びなどを組み合わせた、スペシャルプログラムもあります。団体見学を希望される先生方は、事前に博物館までご相談ください。



「横付車付き自転車」の説明をするものしり博士

【関連行事】

<一般来館者向け>

- 新春独楽回し&南京玉すだれ
1月12日(月祝) 11:00・13:00・15:00
 - 和みの唄会・脳美の美講座入門編<日本の歌百選 手習い処>
1月12日(月祝) 10:00・14:00・16:00
 - おもちゃづくり教室(各日11:00~、14:00~)
「うぐいす笛」[200円] 1月11日(日)・「はねうさぎ」[400円]
1月18日(日)・「からくり鬼」[400円] 2月1日(日)・「布で
つくる富有柿」[300円] 2月15日(日)・「ぶらんこ鳥」[300円]
2月22日(日)・「まゆびな」[400円] 3月1日(日)
※[]内は材料費、定員各回先着20名、開始30分前より整理
券を配布します
 - ものしり博士のわくわくワークショップ
(各日10:00~12:00、13:00~15:00)
1月17日・24日・31日、2月7日・21日・28日、3月7日の各
土曜日
 - みんなあつまれ!メンコ大会 1月25日(日) 13:30~
 - みんなあつまれ!お手玉大会 2月8日(日) 13:30~
 - みんなあつまれ!ペーゴマ大会 3月8日(日) 13:30~
- <学校団体向け>
- 学校利用説明会(小学校教諭対象) 1月7日(水) 14:30~
 - たぬきの糸車 SPECIAL DAYS
2月26日(木)・27日(金)、3月5日(木)・6日(金)
※小学校1年生対象。先着36学級
※都合により内容・時間等が変更になる場合があります
※学校団体見学の申し込みは、随時受け付けております。ご希
望の見学日時が満員となる場合もありますので、お早めに博
物館までご相談ください。

歴博セレクション

斎藤徳元から広がる世界

—陶玄亭コレクションの名品—

3月17日(火)~4月12日(日)〈予定〉

昨年度、当館では特別展「斎藤徳元」を開催しました。徳元(1559~1647)は斎藤道三の外曾孫として岐阜に生まれ、前半生は武将として活躍し、後半生は一転して文芸の道を歩んだ人物です。開催にあたっては徳元研究の第一人者である安藤武彦先生(号:陶玄亭)に多大の御協力をいただきました。

西鶴研究から出発した安藤先生は、乱世を生き抜いた徳元の生き方に共感して50年近くにわたりその足跡を追いつつ、その間、徳元自身の作品はもちろん、徳元をとりまく人物や文芸に関わる作品を集めてこられました。徳元は各界の人々と交際し、文芸活動も俳諧以外に連歌・和歌・狂歌・仮名草子などに及んでいます。陶玄亭コレクションは、連歌・和歌・俳諧の短冊や懐紙、俳書、地誌、江戸時代の百科事典や字引、古写真、ヨーロッパで出版された日本の風俗画、女性の教養書、近代の売り立て目録など多岐にわたります。これは、徳元という人物とその作品が包含する世界の深さによってもたらされたものといえるでしょう。その一部は昨年の特別展で展示しましたが、本セレクションではそれ以外の名品も紹介し、徳元研究から展開する幅広い世界を御覧いただくものです。



さいかくおりどめ
西鶴織留(元禄7=1694年出版・三都版)

フランスの作家で浮世絵研究でも知られるエドモン・ド・ゴンクール旧蔵品。「序」の下部に頭文字「eG」をデザインした蔵書印が捺されています。

加藤栄三・東一記念美術館

こうして名画は描かれた 加藤栄三・東一 素描・下絵・本画展

2009. 1.27(火)～4. 19(日)

当館は平成3年5月に開館して以来、本年度18年目を迎えました。その間、栄三・東一両先生のご遺族はじめ多くの方々から作品のご寄贈をいただき、収蔵作品も1,736点となりました。

収蔵作品のなかでは素描（スケッチ）が多くを占めています。「素描の達人」「素描の鬼」といわれた両先生の素晴らしい素描は、その描写力、内容とともに高い評価を受けています。

両先生の愛弟子である養老町出身の土屋禮一先生がある美術雑誌のインタビューで次のように語っています。

『写生とは生（いのち）を写すと書きますが、形だけを写す「写形」に終わってしまっていることが多いように思います。かつては「生写」とも「生（なま）写し」ともいったそうです。』

まさに両先生の素描は、この「生写」「生写し」だといえます。



「達陀」(素描) 東一

日本画は絵具の性質上、取材現場での制作には無理があります。そのため、素描をもとにアトリエで構想を重ね、下絵を創り、下絵をもとに本画（完成作品）を描いていくという制作過程をたどります。

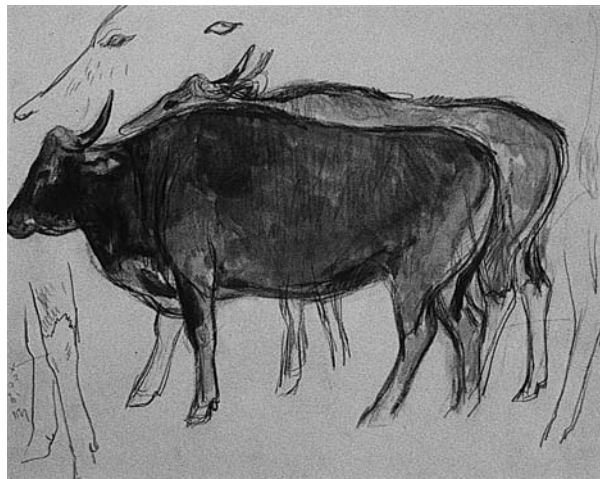
私たちが、美術館や画廊で鑑賞する作品は、

そのほとんどが本画（完成作品）ですが、一つの作品が完成する裏には、多くの素描・下絵といった“おびただしい作品以前の作品”が隠されているのです。

当館は、ご遺族より多くの素描・下絵をご寄贈いただいた結果、その制作過程を系統的に知ることができるユニークな美術館となりました。

今回は、本画とともに素描・下絵を同時に展示し、制作過程を比較しながら鑑賞していただける企画展としました。

いかに作者がモチーフと対峙し、試行錯誤を繰り返しながら作品を完成させていったか、その息づかいや眼差しを感じ取ってください。



「BANTING」(素描) 栄三

栄三先生の「BANTING（牛）」は、多摩動物園にいたジャワ牛を描いた作品ですが、足のスケッチを多くされています。見たままの足の太さでは重い胴体を支えるには細すぎると感じた画家は、その太さに最後までこだわったことが解ります。

また、東一先生の作品「達陀（だつたん）」は、東大寺二月堂で毎年3月12日に行われるお水取りを題材に描いた作品です。寒い深夜、二月堂のお堂内で火天・水天に扮した僧侶が国家安泰を願って舞う。その壮大な行法を描いたもので、その素描はドラマチックに描かれ、見る者の心を打ちます。

素描・下絵・本画といった作品を比較して鑑賞することにより、完成作品では見られない普段着姿の両先生の喜びや苦しみ、ためらいといった心の動きが伝わってきます。

博物館で職場体験

歴史博物館では中学生、高校生、大学生による職場体験を受け入れています。博物館の仕事に興味をもち、将来の職業選択に生かしたいと思っている生徒や学生が応募してきます。

10月30日（木）、31日（金）の2日間は、岐阜市立青山中学校の生徒4名が職場体験に訪れました。

展示室では、学芸員や歴博ボランティアに教えてもらいながら、土器の模様付けの仕方や戦国時代の双六の遊び方を来館者に説明する体験を行いました。

また、学芸員から考古資料や仏画などの美術資料の扱い方を学び、実際に資料について調査したり、分類整理したりする仕事をしました。普段触れることのない古墳時代に焼かれた須恵器や室町時代に描かれた仏画などの実物資料を前に緊張した面持ちで仕事をっていました。

さらに、大切な資料や来館者の安全を守る警

備や来館者が気持ちよく利用できるよう清掃を行っている職員と一緒に仕事をしました。

生徒からは「博物館は、資料を整理する人、警備をする人、清掃をする人などの努力で成り立っていることがわかった。」「昔の物がきれいな状態で残っているので、博物館では物を大切にしているんだなと思った。」という感想が聞かれました。

博物館で働く様々な職員と一緒に仕事をする中で、生徒自身が将来の職業について考えるよいきっかけになればと思います。



須恵器について熱心に調べる中学生

■特集展示■

2階総合展示室内に特集展示コーナーを設置し、1～2ヵ月ごとにテーマを設けて資料を公開しています。12月から3月までの日程は下記のとおりです。

- | | |
|---------------------|-------------|
| 11月20日（木）～1月12日（月祝） | 古文書にみる結婚と離婚 |
| 1月16日（金）～2月22日（日） | 美濃彫 |
| 2月26日（木）～3月29日（日） | 古地図 |

■柳津歴史民俗資料室の展示■

分室・柳津歴史民俗資料室（岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階）では、12月から3月まで次の日程で展示を行います。観覧料は無料です。

- | | |
|---------------------|---------|
| 11月26日（水）～1月12日（月祝） | 須恵器の世界 |
| 1月14日（水）～2月22日（日） | たこたこあがれ |
| 2月24日（火）～ | 七墓と初地蔵 |

研究ノート

「佐保」と「佐保姫」

大橋 路子

春の女神・佐保姫

さほひめの いとそめかくる あをやぎの
ふきなみだりそ 春の山風

天徳四年(960)の『内裏歌合』において平兼盛が詠んだ和歌である。「さほひめ(佐保姫)」は、「佐保山は奈良の東側にあり、五行説では春は東にあたるので、春の女神として扱われ、秋の女神である竜田姫(たつたひめ)と対にされた」『歌枕歌ことば辞典増訂版』(片桐洋一・笠間書院)。佐保山にたなびく霞の衣をまとい、柳を青々と染めて春を運ぶ「佐保姫」は多くの歌人に好まれた題材である。ただし、「佐保姫」が和歌に詠まれた当初は、特定の季節を限定する歌語ではなかった。では、どのような過程を経て春を司る女神として受容されていくのか、「佐保姫」と「佐保」の用例数の変化などを追いつながり考察をしたい。

万葉集における佐保

『万葉集』に「佐保」の歌は33首あるが、「佐保姫」の用例は無い。詠まれた景物、題詞や左注から判断し、歌を四季別に分類すると、春6首、夏1首、秋4首、冬3首あり、残り19首は季節を特定しない歌であった。居住・遊楽・葬送の場として、佐保は当時の都人にとって非常に身近であったことを考えると、特定の季節を想起させる土地ではなかったと言えよう。だ

が、佐保川の名物として「千鳥」を詠み、「佐保」と共に「青柳」「霞」を詠みこむ用例があることに注目したい。ただし、万葉歌においては「千鳥」が冬、「霞」が春の景物と限らないので、後の歌人が「佐保川の千鳥」「佐保山の霞」に対して抱く印象とは異なっていたであろう。

佐保・佐保姫の変遷

平安鎌倉時代に詠まれた「佐保」と「佐保姫」について、歌の季節、詠まれた時代ごとに統計をとったのが下表である。この表から読み取れるのは、全体数において「佐保」は秋と冬を詠む歌が多く、「佐保姫」は春歌が主流であること、I、II期の「佐保姫」は春歌に限らずIII期から春への偏りが生じること、III期以降「佐保姫」の用例が「佐保」の秋歌、冬歌の用例数を超えること、同じくIII期のみ春の「佐保」が秋冬の用例数を超えることである。以上の点から、III期に何らかの動きがあり、「佐保姫」が春の女神として定着したと言えるのではないだろうか。

佐保山の紅葉・佐保川の千鳥

この考えに基づいて「佐保姫」に言及する前に、「佐保」の題材として詠みこまれる「紅葉」と「千鳥」に触れたい。「佐保山の紅葉」は既にI期から多くの用例が確認され、秋歌の主流と言える。『万葉集』には佐保山を紅葉の名所とする歌は無いが、『古今和歌集』には5首もの用例がある。秋歌下において「佐保」を含む265・266・267番歌は紅葉の歌群の終わりを飾り、間に菊の歌群を挟んで、落葉の歌群が「佐保山」を詠んだ281番歌で始まる。賀歌の361番も佐保の紅葉を詠みこむ。影響力の大きい勅撰集におい

合計	春	夏	秋	冬	無	姫	春	夏	秋	冬	無	
I	75	2 [3%]	0 [0%]	51 [68%]	6 [8%]	5 [7%]	11 [15%]	6	0	5	0	0
II	20	2 [10%]	0 [0%]	6 [29%]	8 [39%]	0 [0%]	4 [19%]	1	0	1	2	0
III	56	12 [21%]	2 [4%]	10 [18%]	8 [14%]	3 [5%]	21 [37%]	19	1	0	0	1
IV	178	13 [7%]	4 [2%]	33 [19%]	47 [26%]	11 [6%]	70 [39%]	68	0	2	0	0
V	104	5 [5%]	5 [5%]	12 [12%]	18 [17%]	2 [2%]	62 [59%]	62	0	0	0	0

合計 433 34 11 112 87 21 168 156 1 8 2 1

『新編国歌大観』に基づき、平安時代から鎌倉時代の「佐保」「佐保姫」の語句を含む和歌を季節と年代により分類。794年から1008年をI、1100年までをII、1200年までをIII、1276年までをIV、1333年までをVとした。

I期は「佐保」「佐保姫」の語句を含む和歌が75首あり、そのなかで「佐保」を含む春の歌は2首、夏は0首、秋51首、冬6首、無(季節を特定しない歌)が5首、姫(季節問わず「佐保姫」を含む歌)が11首に分類されたことを示す。〔 〕内は全体に占める割合を示す。「佐保姫」を含む歌の季節による分類は、「姫」の右側に示した。

て、佐保がこのように配列されたことで、歌人たちに「佐保山といえば紅葉」の発想を定着させたのではないか。また、既に佐保川の景物として定着していた「千鳥」は、平安時代後期から千鳥自体が冬の景物として限定される過程で、「佐保川の千鳥」も冬歌として詠まれていくようになる。こうして、秋の紅葉、冬の千鳥が「佐保」を詠む和歌の典型となっていった。

秋を彩る佐保姫

I期の「佐保姫」は春の歌が6首、秋が5首あり、最も早い用例は天曆二年(948)に行われた『陽成院一宮姫君歌合』の「いくしほも しぐれはふらじ さほひめの ふかく染めたるいろとこそみれ」(右・11)。秋の紅葉においては時雨よりも佐保姫に功績があったという内容で、佐保姫は秋の女神として詠まれる。佐保山が紅葉の名所なのだから、佐保姫を秋歌に詠みこむのは自然な発想である。I期に確認できる春の「佐保姫」は、前出『内裏歌合』の兼盛歌、『古今和歌六帖』(第五帖・服飾・3254)を除き、残り4首は『宇津保物語』の用例である。『宇津保物語』は十分に信頼することができる古写本に恵まれず、著しい誤脱・錯簡がある状況を指摘されており、この4首には疑問も残るだろう。秋の「佐保姫」は『河原院歌合』(19)、『大斎院前の御集』(242)、『恵慶集』(235)、『良忠集』(506)の用例で、いずれも当時の代表的歌人の作といえる。彼らにとって佐保姫は決して春を司るだけの女神ではなかったのである。

II期の「佐保姫」は、『長能集』(80)が秋、『太宰大弐資通歌合』(20)、『経信集』(164)が冬、『備中守定綱歌合』(28)が春の歌で「佐保姫」を詠みこむ。ただし『経信集』は初雪題の歌であるが、佐保姫は秋の女神として登場する。用例数は少ないが、II期の佐保姫も、まだ特定の季節に縛られていないと言える。

『堀河百首』と佐保・佐保姫

前述のようにIII期は「佐保姫」のほとんどを春歌が占める。また、III期のみ春の「佐保」が秋冬の用例数を超えている。この変化は、『堀河百首』の頃(1105～6年)から生じたのではないかと考えられる。『堀河百首』の柳題は「さほひめの うちたれがみの 玉柳 ただ春風の

けづるなりけり」(114・大江匡房)をはじめ、116、117、119番歌の4首が「佐保(姫)」を含んだ和歌なのである。「佐保(姫)」と「柳」の組み合わせは、『万葉集』に「うち上る 佐保の川原の 青柳は 今は春へと なりにけるかも」(巻第八・1433・大伴坂上郎女)など4首が詠まれた後、I期では兼盛歌、II期では春の「佐保」を詠んだ2首(『六条斎院歌合』27、『従二位親子歌合』6)を確認するのみである。それが、『堀河百首』柳題の4首により再び注目され始めたようだ。『堀河百首』の作者は、『万葉集』の享受・伝来に関わる人物たちであるという指摘がある。彼らが柳題に「佐保」を選んで詠んだのは、『万葉集』の表現を取り入れたとも考えられる。「佐保姫」と「青柳」を詠みこんだ兼盛歌が、勅撰集『詞花和歌集』に入集したのは『堀河百首』から約45年後である。

同様に「佐保」と「霞」を共に詠みこむ表現も、『堀河百首』以前には『古今和歌六帖』と『国基集』しか確認できないが、『堀河百首』以降、つまり平安時代後期から数多く詠まれるようになる。「さほ姫の 霞の袖も たれゆゑに おほろにやどる 春の月かげ」(『壬二集』1249)のように、佐保山の霞を佐保姫の衣に見立てるのが、定番の詠み方となっていく。このような動きが、III期において「佐保」の春歌の一時的増加をもたらし、佐保姫は春の女神であるという認識を定着させたのではないだろうか。

その後、「佐保」は以前からの主流であった秋冬の歌が春歌を上回る。一方、「佐保姫」は完全に春の女神となり、秋歌で詠まれることは、ほぼ無くなった。能因法師の著作といわれる『能因歌枕』の異本には、佐保姫を「夏をそむる神なりとも」との記述が見られる。この本の成立時期は明らかにされていないが、能因の生年(988年)を考えると佐保姫が春の女神とされていない本文も、不思議ではないだろう。

春の女神・佐保姫。その定着までには、王朝歌人の歌語に対する意識のうつりかわりを、垣間見ることができる。



館蔵資料紹介



よせぎれかけ ぶ とん 寄裂掛布団

幅 79.5cm、長 106cm

色鮮やかなパッチワークの女兒用掛布団。女物の着物古裂こぎれ114枚（後に補修で布を足した部分を含めれば115枚）を寄せて布団皮に仕立てたもので、昭和11年（1936）、岐阜市湊町の商家で、女兒誕生の折に作られました。

昨今の古裂ブームもあり、私達はまずその美しさに目を奪われてしまいます。しかし、このパッチワーク布団皮は、以前誕生した子

供がいずれも病弱だったため、今度こそ健やかな成長をとの願いを込め、親類のおばあさんが作ったものです。通常は新しい生地で布団皮を作るところ、わざわざ着物の古裂を寄せたのは、着物を着ていた人の力が裂に宿り、それを多数寄せることで災いを除くことができると考えたからではないでしょうか。

このような例は、多くの人の手で千羽鶴を折って病氣平癒のために贈ることや、さらしに赤糸で一人一針、合計千針を縫って千人針を作り、出兵する兵士に贈って安全を願ったことと共通する心意といえます。また、長寿の老人が作った寄裂の巾着を、「持っているといいことがある」といって子どもがもらう例もあります。これも作り手の霊力と同時に、裂を寄せたことで霊力が宿るとも考えられたのでしょう。

さらに、この布団皮に寄せた裂は、女物ということもあり効果的に赤色が配されています。計らずしもこの色は、古くから災厄を除く色とされてきました。

美しい彩の掛布団。そこには、子を思う愛情があふれているのです。



利用の御案内

- **開館時間** 午前9時～午後5時
（入館は午後4時30分まで）
- **休館日** 毎週月曜日と祝日の翌日
（月曜日が休日の場合は翌日）
※年末年始（12/28～1/3）
- **観覧料**
歴史博物館常設展、加藤栄三・東一記念美術館
高校生以上 300円（団体240円）
小・中学生 150円（団体90円）
両館共通で観覧される場合
高校生以上 500円（団体400円）
小・中学生 250円（団体150円）
※市内の小・中学生は無料、団体は20名以上
企画展 常設展料金で御覧いただけます。
特別展 そのつど定めた金額。

- **交通案内** J R岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園・歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
公園内ロープウェイ乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。

博物館だより No.70 2008. 12
編集・発行 岐阜市歴史博物館
〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1 ☎058(265)0010
（分館）加藤栄三・東一記念美術館
〒500-8003 岐阜市大宮町1-46 ☎058(264)6410